

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成26年1月16日(2014.1.16)

【公開番号】特開2011-224172(P2011-224172A)

【公開日】平成23年11月10日(2011.11.10)

【年通号数】公開・登録公報2011-045

【出願番号】特願2010-97219(P2010-97219)

【国際特許分類】

A 4 7 B 13/00 (2006.01)

A 4 7 B 7/00 (2006.01)

A 4 7 B 17/04 (2006.01)

【F I】

A 4 7 B 13/00 B

A 4 7 B 7/00 A

A 4 7 B 13/00 Z

A 4 7 B 17/04

【手続補正書】

【提出日】平成25年11月25日(2013.11.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ダクトカバーの上方に所定の隙間を介してデスクトップパネルの下端部が位置し、前記隙間を利用してダクトカバーを使用位置から退避させ得るようにしたものにおいて、

前記ダクトカバーの使用位置からの退避時に、前記隙間を塞ぐ閉塞部材の隙間閉塞位置からの退避動作が伴うように構成したことを特徴とするデスク。

【請求項 2】

ダクトカバーの上方に所定の隙間を介してデスクトップパネルの下端部が位置し、前記隙間を利用してダクトカバーを使用位置から退避させ得るようにしたものにおいて、

前記ダクトカバーに前記隙間を塞ぐ閉塞部材を付帯させて設け、ダクトカバーの使用位置からの退避時に、閉塞部材の隙間閉塞位置からの退避動作が伴うように構成したことを特徴とするデスク。

【請求項 3】

ダクトカバーに前記隙間を塞ぐ閉塞部材を一体的に設け、ダクトカバーの使用位置からの退避に伴って、閉塞部材が隙間閉塞位置から退避するように構成している請求項 2 記載のデスク。

【請求項 4】

閉塞部材がダクトカバーの上面からデスクトップパネルの下端部に向かって起立状態で設けられ、ダクトカバーの使用位置からの退避開始時に閉塞部材がデスクトップパネルの厚み中心から遠ざかるように構成している請求項 1 ~ 3 の何れかに記載のデスク。

【請求項 5】

ダクトカバーが軸及び軸受を介してケーブルダクトの開口を開閉する位置に回転可能に支持され、ダクトカバーの回転によるケーブルダクトの開口からの退避動作に伴って閉塞部材がデスクトップパネルの厚み中心から遠ざかる方向に回転するように構成している請求項 4 記載のデスク。

【請求項 6】

軸と軸受の間に、軸の軸受に対する着脱を許容する着脱許容角度を設定して、閉塞部材がデスクトップパネルの下端から厚み方向に脱出する位置が前記着脱許容角度内にあるようにしている請求項 5 記載のデスク。

【請求項 7】

ダクトカバーの対向する縁部をそれぞれ 2 軸及びそれらと対をなす軸受を介してケーブルダクトの開口を閉止する位置に支持させ、一方の軸を軸受から開放するとともに他方の軸を軸受に支持させたままでダクトカバーを何れの方角へも回転可能とし、何れの方角に対しても閉塞部材がデスクトップパネルの厚み中心から遠ざかるようにしている請求項 4 ~ 6 の何れかに記載のデスク。

【請求項 8】

対応位置に軸又は軸受を有する一对の端部部材と、両端に前記端部部材を嵌め合わせることによってこれら両端部部材間に架け渡されるカバー本体とを具備し、カバー本体の上面にオプシオン部材を、前記端部部材を嵌め合わせるによって抜脱不能に取り付けてなることを特徴とするダクトカバー。

【請求項 9】

カバー本体が押し出し材であって、上面に長手方向に延びる係り合い溝を有し、この係り合い溝に対してオプシオン部材の基端を端部からのスライド動作のみによって着脱可能として、端部部材を嵌め合わせた状態で係り合い溝を閉止していることを特徴とする請求項 8 記載のダクトカバー。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

すなわち、本発明のデスクは、ダクトカバーの上方に所定の隙間を介してデスクトップパネルの下端部が位置し、前記隙間を利用してダクトカバーを使用位置から退避させ得るようにしたものにおいて、前記ダクトカバーの使用位置からの退避時に、前記隙間を塞ぐ閉塞部材の隙間閉塞位置からの退避動作が伴うように構成したことを特徴とする。

或いは、本発明のデスクは、ダクトカバーの上方に所定の隙間を介してデスクトップパネルの下端部が位置し、前記隙間を利用してダクトカバーを使用位置から退避させ得るようにしたものにおいて、前記ダクトカバーに前記隙間を塞ぐ閉塞部材を付帯させて設け、ダクトカバーの使用位置からの退避時に、閉塞部材の隙間閉塞位置からの退避動作が伴うように構成したことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

以上のように、本実施形態のデスク 1 は、ダクトカバー 4 の上方に所定の隙間 L を介してデスクトップパネル 8 の下端部 81 が位置し、前記隙間 L を利用してダクトカバー 4 を使用位置 4 (R) から退避させ得るように構成するとともに、前記ダクトカバー 4 の使用位置 4 (R) からの退避時に、前記隙間 L を塞ぐ閉塞部材 7 の隙間閉塞位置 7 (R) からの退避動作が伴うように構成したものである。このため、天板 21、22 の反使用端 21a、22a に配置したデスクトップパネル 8 がダクトカバー 4 上に位置することになって、デスクトップパネル 8 を存置したままダクトカバー 4 を外して配線処理をすることができ、ケーブルダクト 3 を大きくして天板面積を犠牲にすることも回避することができる。しかも、ダクトカバー 4 の装着時はデスクトップパネル 8 の下方の隙間 L を閉塞部材 7

で適切に塞ぐことができ、ダクトカバー 4 を外すときには閉塞部材 7 が一緒に隙間閉塞位置 7 (R) から退避するので、退避操作を個別に行う必要がなく、良好な使い勝手を実現することができる。